

日蓮大聖人御書全集

やどやのにゆうどう

ごじよう

宿屋入道への御状

新版
852

やどやのにゆうどう

（こじよう

宿屋入道への御状

ぶんえい ねん

文永5年（'68）

8月21日

47歳

やどやみつのり
宿屋光則

のち

しよ た

もう

ふしんきわ

そうろう

その後は、書、絶えて申さず。不審極まりなく候。そ

い

しようかがんねんひのとみはちがつにじゆうさんにちいぬいのこく

おおじしん

もそも、去ぬる正嘉元年丁巳八月二十三日戌亥刻の大地震、

にちれんしよきよう

ひ

かんが

ねんぶつしゆう

ぜんしゆうとう

日蓮諸経を引いてこれを勘えたるに、念仏宗と禅宗等

ごきえ

ゆえ

にほんしゆご

しよだいぜんじん

しんに

な

とを御帰依あるが故に、日本守護の諸大善神、瞋恚を作し

お

わざわ

たいじな

たこく

て起こすところの災いなり。もしこの対治無くんば他国に

くに

やぶ

よし

かんもんいつつう

せん

しようげんにねん

この国を破らるべきの由、勘文一通これを撰し、正元二年

かのえさるしちがつじゆうろくにち

ごへん

ふ

たてまつ

こさいみようじのにゆうどうどの

庚申七月十六日、御辺に付し奉つて、故最明寺入道殿

へこれを進覧せり。しんらん

のちくかねん

へ

ことしだいもうここく

ちようじようあ

よし

その後九箇年を経て、今年大蒙古国より牒状有るの由

ふうぶん

とううんぬん

きようもん

か

くに

くに

せ

風聞す等云々。經文のごとくんば、彼の国よりこの国を責

ひつじよう

にほんこく

なか

にちれんいちにんまさ

めんこと必定なり。しかるに、日本国の中には日蓮一人当

か

せいじゆう

じようぶく

ひと

か

し

に彼の西戎を調伏するの人たるべしと、兼ねてこれを知

ろんもん

かんが

り、論文にこれを勘う。

くん

くに

かみ

ほとけ

ないそう

へ

君のため、国のため、神のため、仏のため、内奏を経ら

いさい

むね

げんざん

と

もう

そうろう

きようきよう

るべきか。委細の旨は見参を遂げて申すべく候。恐々

きんげん

謹言。

ぶんえいごねんはちがつにじゅういちにち
文永五年八月二十一日

やどやさえものにようどうどの

宿屋左衛門入道殿

にちれん
日蓮

かおう
花押